

# 競 技 注 意 事 項

## 1. 競技規則について

本大会は、2014年日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。

## 2. 練習について

- (1) 練習は、指定された練習場所を使用する。第二陸上競技場（補助競技場）では、トラック競技・跳躍競技および投てき競技（砲丸投、やり投の助走練習程度）の練習を行うことができる。（練習会場日程参照）
- ・円盤投・ハンマー投・やり投の練習については、第二陸上競技場ではできない。早めに主競技場ピットに誘導し、希望により練習を多めにとり練習に替える。
  - ・砲丸投、やり投の助走練習は、必ずチームの監督・コーチの指導のもと、安全に留意して実施すること。
- (2) 棒高跳の練習については主競技場内を使用することができる。

練習会場日程

	8月23日（土）	8月24日（日）
主 競 技 場	9:00～10:45 トラック競技 跳躍競技 ・棒高跳（男子）9:30～	8:00～9:30 トラック競技 跳躍競技 ・棒高跳（女子）8:00～
第 二 陸 上 競 技 場	9:00～18:00 トラック競技 跳躍競技 投てき競技 ・砲丸投 12:00～16:00 ・やり投（助走練習程度）9:30～11:00	8:00～15:00 トラック競技 跳躍競技 投てき競技 ・砲丸投 8:00～11:30 ・やり投（助走練習程度）8:00～11:30

## 3. 招集について

- (1) 競技者招集所は、第二陸上競技場（補助競技場）の用器具庫横に設ける。
- (2) 招集時刻は競技時刻を基準とし、下記のとおりとする。

種 目	予 選	決 勝
ト ラ ッ ク	20分前	15分前
フ ィ ー ル ド（跳躍）		40分
フ ィ ー ル ド（棒高跳）		60分前（現地招集）
砲 丸 投		40分前
砲丸以外の投てき種目		50分前

- (3) 招集時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものととして処理する。

### (4) 招集の手順

- ① 競技者は招集時刻5分前までに、招集所競技者控所で待機し、点呼を受ける。その際、競技者係にナンバーカード・スパイク・衣類・持ち物等の確認を受ける。
- ② 競技者控所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
- ③ 代理人による点呼は原則として認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人または代理人が招集所の競技者係に2種目同時出場届を提出する。
- ④ リレー競技に出場するチームは、招集時刻の1時間前までにオーダー用紙にオーダーを記入し、1枚を提出すること。
- ⑤ 棒高跳の点呼は競技場所で行う。点呼終了後は公式練習に入る。公式練習は2回に分けて実施する。
- ⑥ 出場種目を棄権する場合は、招集開始時刻までに招集所の競技者係に棄権届を提出すること。

## 4. 競技について

- (1) 競技者は、当該種目以外アリーナ内に立ち入ることはできない。

- (2) 競技規則162条7により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。
- (3) トラック種目のスタート合図は英語で行う。
- (4) 短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ることに。
- (5) トラック競技において、欠場者がでた場合はそのレーンを空けて行う。
- (6) トラック競技の判定は、全て写真判定装置（全自動電気計時1/100）で行う。
- (7) 4×100mリレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意するマーカー（1カ所）を使用することができる。マーカーは監察係が現地で渡す。そのマーカー以外は使用してはならない。
- (8) 4×400mリレーの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ順に内側より並ぶこと。コーナートップとは、第3コーナー内側に示された黄色旗を通過した時点のことである。この後は、並んだ順序を変えてはならない。なお、次走者は、テークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- (9) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意したマークを、2カ所置くことができる。マークはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。
- (10) 携帯電話等の通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (11) 競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、規則第146条に基づき、正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行われる種目では15分以内に、当該競技者自身または、監督、コーチが口頭で審判長に申し出ること。

#### 5. 競技用シューズについて

スパイクの長さは9mmをこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は12mmをこえてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm以内でなければならない。また、スパイクの数は11本以内とする。

#### 6. ナンバーカードについて

ナンバーカードは指定された大きさ（縦20cm×横24cm）で、ユニフォームの胸部と背部に付けること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、走高跳・棒高跳に出場する競技者は、胸部または背部だけでもよい。またトラック競技者は写真判定用の腰ナンバー標識を招集所で受け取り、パンツの右後方に付けること。

#### 7. 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

陸上競技ルールブック2014「競技会における広告および展示物に関する規定」の通りとする。

#### 8. 競技の抽選ならびに番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝については、主催者が公平に組み、レーン順を決定する。その結果を記録掲示板に掲示する。
- (3) トラック競技においてプラス出場者を決める場合、その最下位で同タイムがでた場合、（以下同タイム者という）は下記の方法で決める。
  - ① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mリレー・4×400mリレー競技の場合  
同タイム者については、判定写真を拡大し、細部まで読み取り、着差の判定をする。それでも判定できないときは同タイム者、または代理人によって抽選する。
  - ② ①以外の種目の場合  
同タイム者については、すべて次のラウンドに進めることとする。

#### 9. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は主催者が用意した物を使用しなければならない。ただし、棒高跳用ポールは検定において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判員が行う。
- (2) 練習用として個人の用具は競技場に持ち込んではいけない。

10. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方

走高跳	男子	1m75(練習)	1m80	1m85	1m90	1m93	以降	3cm	
	女子	1m40(練習)	1m45	1m50	1m55	1m58	以降	3cm	
棒高跳	男子	3m60(練習)	3m80	4m00	4m10	4m20	4m30	以降	10cm
	女子	2m20(練習)	2m30	2m50	2m70	2m80	2m90	3m00	以降

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、上記のバーの上げ方とする。
- (2) 第1位が同成績の場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

11. 競技場の入退場について

- (1) トラック競技の競技者の入退場は、係員の指示に従うこと。
- (2) フィールド競技の競技者は係員の指示に従って入退場する。
- (3) フィールド競技の入賞者は当該審判員が、トラック競技の入賞者は係員が表彰者控所に誘導する。

12. 表彰について

- (1) 各種目第3位までの入賞者はユニフォームで表彰を受けること。その際入賞者は決勝終了後入賞者控場所（正面玄関ロビー内）で待機し、係員の指示を受けること。
- (2) 入賞者の得点は、1位8点、2位7点、3位6点・・・8位1点とする。

13. その他

- (1) 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド下の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。
- (2) 更衣は補助競技場の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管し、盗難防止に努めること。
- (3) 記録証の交付を希望する競技者は、陸上競技場本部の記録証交付係に記録証交付願および交付料金500円を添えて申し込むこと。
- (4) 記録は競技場2F通路中央の記録掲示板に掲示する。
- (5) 横断幕等は観客席バックスタンドおよびサイドスタンドの中段より上部のみに設置することができる。ただし、個人名入りの横断幕等は禁止する。
- (6) その他、詳細については監督会議で説明する。
- (7) 届出用紙は以下の場所に折り込み、または用意してある。
  - ・2種目同時出場申請書・棄権届・リレーオーダー用紙・・・プログラムの最後のページに折り込み
  - ・記録証明書交付願・抗議申立書・・・・・・・・・・・・・・本部（主競技場1F会議室）